



横浜市立富岡小学校

学校だより10月号



読書の秋

副校長 松口 真人

朝晩の涼しい風が気持ちよく、過ごしやすい季節となりました。いよいよ秋本番です。秋は読書に適した季節であるということから「読書の秋」とも言われます。

子どもたちにとって、読書はとても大切なものです。私も小学生のときに読んだ伝記や物語の内容を今でもよく覚えていて、本校の図書館で、当時読んでいた本を見つけると思わず手に取ってしまいます。「子どもの読書活動の推進に関する法律」に、子どもの読書活動は「子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」とあるように、読書を通して子どもは様々な力を身につけていきます。

子どもたちが本に興味をもち、楽しんで読書活動に取り組めるように、国語の学習では、どの学年にも「本は友達」という単元があります。この単元の中で、子どもたちは、昔話やファンタジー、ノンフィクションなど様々なジャンルの本を読みます。また、読んだ本をポスターやポップなどにして友達に紹介する活動にも取り組みます。教科書には、「この本、読もう」というページがあり、その学年にあった本を紹介しています。

また、図書委員会では、読んだ本の題名、作者、お気に入り度、ひとこと感想などを記録していく「読書通帳」を企画したり、課題図書のパスターを作成し、校舎内に掲示したりして、全校児童が読書に興味をもち、学校図書館を利用してもらえるように活動しています。



今年度も、10月27日から11月9日が全国読書週間となります。全国読書週間は、終戦まもない1947年（昭和22）年に、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社、書店や公共図書館などが設定したそうです。本校では読書週間に、職員がおすすめの本の心に残った表現を書き抜いたしおりをつくり、この期間に学校図書館から本を借りて読んだ児童にプレゼントする予定です。

明治大学文学部教授の齋藤孝さんは、子どもの読書の力を高めるためには、読んだ内容を家族に説明することが有効だと述べています。また、同じ部屋で家族といっしょに本を読むことは、一人で読書をする場合より、集中力が増すそうです。ご家庭でもお子さんと同じ本を読み、感想や感動を共有していただけたらと思います。

最後になりますが、図書館ボランティアの皆様には、学校図書館の本の修繕や環境整備、子どもたちへの読み聞かせなど、本校の読書教育に多大なるご協力をいただいております。この場を借りて、厚く御礼申し上げますとともに、今後ともご協力いただきますよう、お願い申し上げます。